

答辞

暖かな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。

本日、学位記授与式を挙行していただき修了生一同、心より厚くお礼申し上げます。

また、池上学長より熱い激励のお言葉を賜りましたこと、重ねてお礼申し上げます。

早春のこの日、私たちは長崎総合科学大学大学院修士課程の修了生として新たな門出を迎えることとなりました。大学院での生活を振り返りますと、入学してからのこの二年間は瞬く間に過ぎたように感じます。私はそのほとんどの時間を研究活動に費やしてきました。複数の研究テーマに携わることができ、専門分野に対する幅広い知識や様々な経験を得ることができました。また、学会発表に向けて夜遅くまで準備を行ったことや、実験が思うようにいかないこともありました。そのような時、諸先生方や同じ研究室の先輩、後輩など様々な人たちに支えられ、乗り越えることができました。こうした活動の中で、人と人との繋がりの大切さを改めて感じ、この大学で出会った多くの人達は、私たちにとってかけがえのない財産となりました。

私たち修了生は、本日をもって長崎総合科学大学を巣立ち、新たな道を歩むこととなります。これまでに得た知識や経験だけでは乗り越えられない試練が待ち受けているかもしれませぬ。

しかし、本大学院を修了した誇りと自信を胸に自ら選んだ道を

信じ、挑戦を続けていきます。そして、地域社会、国際社会に貢献できる人材になるよう精進して参ります。

最後になりますが、長崎総合科学大学で充実した学生生活を送ることができましたのも、ひとえに諸先生方や職員の皆様、友人、先輩、後輩そしてなにより、私たちを今日まで温かく見守り支えてくれた家族のおかげです。心より厚くお礼申し上げます。名残は尽きませんが、長崎総合科学大学の更なるご発展を願うとともに、皆様のご健勝と今後一層のご活躍を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和四年三月十五日

長崎総合科学大学大学院

大学院生代表 大門 隆哉